

浅川力三 県政だより



ホームページアドレス <http://www.asakawa-rikizo.net>

東北地方太平洋沖地震で、被災された方々やお亡くなりになられた方々には、心からお見舞いとお悔やみを申し上げます。北杜市では幸い大きな被害はありませんでしたが、経験した事のない揺れと長時間の停電により不安な一夜を過ごされた事と存じます。



平成23年2月12日 第10回全国小学生雪合戦大会を開催！

北杜市高根町清里の清里丘の公園ボールゲーム場特設会場で開かれました。日本全国から多くのチームが参加。今大会優勝チームファ祖谷ーボルケーノ（徳島）に優勝旗の授与を行いました。



平成23年3月5日 第7回八ヶ岳南麓・まきばの冬花火

キープ協会にて打ち上げられた花火を1,000人を超えるたくさんの方が観覧しました。



平成23年3月6日 第5回山梨県雪合戦大会を開催！

サンメドウズ清里スキー場で、全国から35チーム350人以上が参加！優勝は岐阜県飛騨市からエントリーしたBigうえ〜ぶでした。



明るく元気な「未来のやまなし」の実現へ ～2月議会で横内知事の7つのチャレンジがスタート～

県議会議員 浅川 力三

日頃より温かいご支援をいただき、厚く感謝申し上げます。

さて、去る3月14日まで19日間の会期で2月定例県議会が開催され、経済・雇用対策やリニア中央新幹線など県政全般について論戦が展開されました。また、今定例会は横内県政2期目の船出のときでありまして、横内知事は、知事選で示した「元気産業創出」など7つのチャレンジに取り組み、明るく元気な「未来のやまなし」を創っていくとの所信を述べられました。力強いリーダーとして、引き続きその手腕を発揮されることを心から期待いたします。

私は、本会議の代表質問などに登壇



7月末のシンガポール・タイでの知事トップセールスに先駆けて3月1日シンガポール政府観光局スー東アジア局長の知事表敬訪問に同席

することはありませんでしたが、農政商工観光委員会において、もっとも熱く、もっとも多くの質疑を行い、執行部との議論を深めました。裏面に2月定例県議会の概要を記載しましたので、ご一読いただき、ご意見などをお寄せいただけますようお願いいたします。

ところで、4月には、皆様から私にいただいた4年の任期が満了します。振り返りますと、第105代副議長を初め、総務委員長、農政商工観光委員長など県政や県議会の一端を担う立場で活動する機会に恵まれたこと、また、地元北杜市民の夢の実現のために汗を流し続けてきたことは、私の誇りであります。

いよいよ横内知事の新たなチャレンジが始まりました。私は、知事の掲げる明るく元気な「未来のやまなし」の実現を目指して、生粋の県政与党の一員として知事とともに全力を傾けてまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。

誠意・熱意・創意・勇気を持って「熱き心で行動する男」

浅川力三プロフィール

昭和22年7月8日/
浅川力三 誕生
旧清里村で父勝平、母すずゑの五男として生まれる。父は清里村 村長、高根町 町長を歴任
昭和41年/須玉商業卒業
昭和45年/拓殖大学卒業
昭和49年/昭和薬科大学卒業

昭和59年/八ヶ岳青年会議所創立メンバー 副理事長
平成9年/清里小学校PTA会長
平成10年/高根町議会議員
平成13年/高根町議会副議長
ポール・ラッシュの会 会長
平成15年/山梨県議会議員
平成16年/清里観光振興会々長

平成17年/
決算特別委員長
平成18年/出資法人調査特別委員長
山梨県雪合戦連盟会長
北杜肝友会 相談役
平成19年/
農政商工観光委員長

山梨県信用保証協会 理事
企業会計決算特別委員長
山梨県農業信用基金協会 理事
平成20年/総務委員長
北杜市観光協会 会長
平成21年/山梨県議会 副議長
北杜ライオンズクラブ 会長
オール山梨青年会議所シニア会長
財団法人やまなし観光推進機構 副会長

【提出案件】

「山梨県一般会計当初予算案」など78案件

【一般会計当初予算案】

●総額4,455億1,576万9千円

(対前年度比△3.5%)

知事選が行われたこと、県議選を控えていることから骨格予算となり、新たな政策判断が必要な経費は6月補正予算に計上されます。

●主な事業

○緊急雇用創出事業 46億円、

ふるさと雇用再生事業 18億円

離職者への就業機会の提供

○商工業振興資金 200億円の融資枠

中小企業の資金繰りを支援

○救急搬送受入支援事業費補助金1,420万円

救急患者の受入のため救急病院に空床を確保

【質疑内容】

●農政商工観光委員会 私の質疑を掲載しました。

〈農業の担い手対策について〉

【問】平成21年度の本県の新規就農者数は100名を超えた。このうち北杜市では何人か。また、今後の数値目標はあるか。

【答】北杜市は16名である。4年後には倍増の200名を目標としている。特に、企業の参入に力を入れていきたい。

〈耕作放棄地の基盤整備について〉

【問】北杜市須玉町笹場地区の耕作放棄地で企業が農業参入している。この地が再び耕作放棄地とならないように基盤整備が必要であるが、今後の予定はどうか。

【答】段差解消や水路の整備などを行うとともに、全体を電気柵で囲い、使いやすいほ場となるよう基盤整備に努める。また、今後、白州町内の耕作放棄地の基盤整備も進めていく。

〈農産物の販路拡大について〉

【問】県は、東京農業大学小泉名誉教授をアドバイザーに招いて、農産物の販路拡大や6次産業化に取り組んでいる。私は、生産者、加工業者とコンビニが連携して商品を開発、販売している状況を見てきた。本県でも特産品となる新たな加工品を開発する必要がある。

【答】来年度早い時期に、小泉先生を中心としたチームを立ちあげて、新たな加工品の開発を進めていく。その議論には、規格外品の加工も含まれる。農産物の付加価値を高めて、全国に討って出るような特産品を開発していきたい。

〈雇用対策について〉

【問】緊急雇用創出事業等により雇用された人が、期間満了後にそのまま離職者に戻ってしまわないような支援が必要である。

【答】期間満了者には、ハローワークや求職者総合支援センターで職を紹介している。また、ふるさと雇用再生事業や重点分野雇用創造事業では、継続的な雇用に結びつくような取り組みを進めている。

【問】本年度、高校、大学新卒者の就職が決まらない例がみられる。彼らの雇用確保のための取り組みはどうか。

【答】3月15日に、この時期では異例であるが、採用枠を残している企業と就職が決まっていない学生との就職面接会を行う。このイベントにできる限り多くの企業が参加するよう全力を挙げている。

〈おもてなしのやまなし観光振興条例について〉

【問】条例制定に向けた取り組み状況は、どうか。

【答】新年度早々に条例の内容を議論する検討委員会を開催できるよう、準備を進めている。また、前回、浅川委員から提案があった廃屋や看板の撤去等についても、他県の状況などの検討材料を収集している。



【問】県庁内の体制の整備及び市町村、関係機関・団体との連携についてどのように考えているか。

【答】知事、関係部局長で構成する推進本部のような部局横断的な組織を設置すべきだと考えている。また、検討委員会には、バス、タクシー、旅館等の関係者にも入ってもらい、条例の検討を進めたいと考えている。

【問】条例で定めた理念を具体化させ、県民総参加の活動とするためには実施計画が必要と考えるが、どうか。

【答】条例策定と併せて、県観光振興計画のようなものを作っていきたいと考えている。

〈富士の国やまなし館について〉

【問】富士の国やまなし館に隣接するレストランが閉鎖された。これを借りて、一体で運営すれば、より効果が上がると考える。前向きに検討されたい。

【答】今後、検討していく。

過去4年間の主な質疑

私は、県議2期目の4年間で、許された発言時間をフルに使い、代表質問や一般質問に登壇して、県政全般について議論しました。その中から、特に重要なもの、印象に残ったものを紹介します。

●肝炎対策について（平成20年2月定例県議会 一般質問）
山梨日日新聞が1面トップで報道しました。

【問】

肝炎の患者やウイルス感染者を早く発見して、治療に結びつけていくことが重要である。県は、医療費助成を含めて、今後どのように対応していくのか。

【答】

本県の感染率は全国平均の1.5倍であり、肝炎対策は重要な県政課題である。このため、新たにインターフェロン治療助成事業及び肝炎ウイルス検査事業を実施して、検査から治療までの一連の取り組みにより患者への支援に努めていく。

●農業の担い手対策について（平成22年2月定例県議会 代表質問）
副議長は質問しないという県議会の慣例を破った、異例の質問でした。

【問】

農業が魅力あるビジネスとして、また、本県の代表的な産業として全国に誇れるよう、農業の再生に向けた担い手対策を今後どのように進めていくのか。

【答】

農政部に担い手対策室を設置して、きめ細かな対策を総合的に推進する。就農定着支援制度を新たに実施するとともに、農業参入のための機械購入費への助成や農地のリース制度にも取り組んでいく。

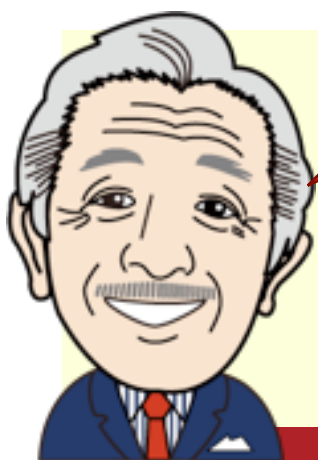
●少人数学級編制の拡充について（平成22年11月定例県議会 代表質問）
県教育委員会からの答弁において、今後の前向きな方針を引き出しました。

【問】

知事は、現在小学校1、2年生と中学校1年生に導入している少人数学級編制を、国に先駆けて平成23年度から小学校3年生に拡大するとの考えを表明された。さらに、小学校4年生以上や中学校2、3年生へ拡充する考えはないか。

【答】

国の計画実現を前提に、平成24年度以降に小学校4年生以上への拡充を検討し、中学校2、3年生についても国の計画を前倒して実施する。



2月定例
県議会を
終えて

2月定例県議会では、経済・雇用対策や農業振興などを中心に活発な論戦が繰り広げられました。

私は、農政商工観光委員会で、農業の6次産業化や働く意欲のある人への雇用機会の提供、「おもてなしのやまなし観光振興条例」などについて県の考えを質しました。皆様とお約束した「豊かな峡北地域をめざして！」いずれも重要な施策です。これからも横内県政をしっかりと支えつつ、これらの施策の充実に努め、峡北地域のために働いてまいります。